

## 序

昭和 22 年に前身校の東京農業教育専門学校が設置され、本年度、本校は開校 70 周年を迎えました。この間に本校は、昭和 24 年の国立学校設置法の施行に伴い東京教育大学東京農業教育専門学校附属中学校に改称され、その後、附属高校も開校し、昭和 27 年には東京農業教育専門学校の閉校に伴い大学直属の附属学校として、東京教育大学附属駒場中学校・東京教育大学附属駒場高等学校に改称、昭和 48 年の筑波大学設置、その後の東京教育大学の閉校に伴い、昭和 53 年に筑波大学附属駒場中学校・筑波大学附属駒場高等学校と改称されて現在に至っています。

本校は国立大学の附属校として、学生の教育実習を行うだけでなく、教育の理論および実際に関する研究ならびにその実証を重ね、公立学校とは異なる先導的・実践的な取り組みを実施してきました。このような取り組みは全国の教員の資質・能力の向上や教育活動の推進に役立てていただくため、全国から多くの教員を受け入れるだけでなく、昭和 49 年からは教育研究会を開催し、その数は本年度で 44 回となりました。教育研究会では中学、高校のすべての教科で公開授業を行い、教科別分科会を開催して議論を深めると共に、講演会、シンポジウムなどを開催してその時々に応じた課題について参加者と共に研鑽を深めて参りました。平成 14 年にはスーパーサイエンスハイスクールに指定され、本年度は第 4 期目の指定を受けて、先進的な理数教育、体験的・問題解決的な学習手法の開発を行っております。数学科を中心に多くの教材が開発され、全国に出向いてその地の学校で授業を行い、普及を図っています。

また、研究活動成果が様々な形でとりまとめられるなかで、昭和 35 年には研究報告第 1 号が発刊され、平成 11 年までに 39 号が発刊されました。翌、平成 12 年には冊子名を「筑波大学附属駒場論集」と改題して、今までに 56 号が発刊され、508 の研究などが報告されています。この論集は、本校における日常的な教育研究・教育実践の成果をまとめたもので、各教科教員で構成される教科グループが数年の期間で研究プロジェクトを実施し、その成果が報告される他、教員による個別研究が報告されています。第 57 号となる今回の論集は、各教科および生徒部からのプロジェクト研究報告と共に、社会科 2 名、英語科 3 名からの個人論文が掲載されています。本論集をとりまとめることで、本校教員にとりましては日頃の教育活動を見直し、新たな取り組みへとつなげる原動力となり、本校以外の先生方にとりましては本校の実践的、先導的研究を知っていただける良い機会となっています。

この論集に掲載された内容が、関係各位の教育活動のご参考に少しでもなるならば幸いに存じます。加えて本校及び関係各位における教育実践のより一層の充実を図るため、本論集への忌憚のないご意見、ご批判、ご提言を賜りますようお願い申し上げます。

2018 年 3 月

筑波大学附属駒場中・高等学校

校長 林 久喜